

科学技術関係予算に関する 府省政務会合資料

～情報通信関係の科学技術関係予算～

平成23年10月6日

総務省

目 次

	ページ
①予算重点化の考え方 -----	2
②予算の検討体制 -----	3
③アクションプラン及び施策パッケージへの取組 -----	5
④各研究開発法人の戦略的な目標と目標達成のための重点的取り組み等 -----	6

①予算重点化の考え方

- 「平成24年度予算の概算要求組替え基準について」(9月20日 閣議決定)により、各府省は、ムダづかいの根絶や不要不急な事務事業の徹底的な見直しを行い、それにより確保された財源を用いて必要性や効果のより高い施策の実現に向けた重点配分を行う必要がある。
- このため、ICT分野の科学技術関係予算の概算要求に際しては、「新たな情報通信技術戦略」(平成22年5月 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部)、「第4期科学技術基本計画」(8月19日 閣議決定)等の政府全体の政策を踏まえつつ、さらに、情報通信審議会の答申(「知識情報社会の実現に向けた情報通信政策の在り方～震災からの復興と日本の再生に向けたICTの研究開発戦略～」(7月25日 中間答申))において提言された「国が今後取り組むべき研究開発課題」を踏まえ、特に、

- (1) 震災からの復興・再生
- (2) グリーンイノベーション
- (3) ライフイノベーション
- (4) 社会にパラダイムシフトをもたらす技術革新

を実現するためのICT分野の施策に重点化して概算要求を行った。

②予算の検討体制

- 平成24年度概算要求は、「新たな情報通信技術戦略」、「第4期科学技術基本計画」等の政府全体の政策及び情報通信審議会の答申等を踏まえ、省議等の一定の省内手続を経つつ予算重点化を図った上で財務省に要求書を提出した。

情報通信審議会における研究開発戦略の検討

国(政府)として今後取り組むべき研究開発課題

(1)グリーンイノベーションの推進

- ①ICTの活用による省エネルギー化・低炭素化(スマートグリッドに関する通信技術等)
- ②ICTそのものの省エネルギー化・低炭素化(フォトリックネットワーク技術等)

(2)ライフイノベーションの推進

- ①ICTIによる健康で自立して暮らせる社会の実現
- ②人と社会にやさしいコミュニケーションの実現
- ③安心とのおいを与える情報提供の実現

(3)社会にパラダイムシフトをもたらす技術革新の推進

- ①ネットワーク基盤
- ②ワイヤレス
- ③セキュアネットワーク
- ④宇宙通信システム技術
- ⑤革新機能創成技術

(4)東日本大震災を踏まえた復興・再生、災害からの安全性向上への対応

- ①通信・放送ネットワークの耐災害性の強化等
- ②災害の状況を遠隔からリアルタイムに把握・蓄積・分析等を可能とするセンサーネットワーク

表 情報通信審議会研究開発戦略委員会の構成員一覧

安田 浩	主査 臨時委員 東京電機大学 未来科学部長 教授 (社)電子情報通信学会 会長
荒川 薫	主査代理 明治大学 理工学部 教授
伊東 晋	東京理科大学 理工学部 教授
近藤 則子	老テク研究会 事務局長
高橋 伸子	生活経済ジャーナリスト
片山 泰祥	日本電信電話(株) 常務取締役 技術企画部門長 次世代ネットワーク推進室長
上條 由紀子	金沢工業大学大学院 准教授
河合 由起子	京都産業大学 コンピュータ理工学部 准教授
國尾 武光	日本電気(株) 執行役員常務
久保田 啓一	日本放送協会 放送技術研究所長
嶋谷 吉治	KDDI(株) 取締役執行役員専務 技術統括本部長
関 祥行	(株)フジテレビジョン 常務取締役
津田 俊隆	(株)富士通研究所フェロー
堤 和彦	三菱電機(株) 常務執行役 開発本部長
戸井田 園子	All About家電ガイド/家電&インテリアコーディネーター
富永 昌彦	(独)情報通信研究機構 理事
中川 八穂子	(株)日立製作所 中央研究所 新世代コンピューティングPJ シニアプロジェクトマネージャ(PJリーダー)
西谷 清	元ソニー(株)業務執行役員 SVP、環境、技術渉外担当
野原 佐和子	(株)イプシ・マーケティング研究所 代表取締役社長
平田 康夫	(株)国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長
三輪 真	パナソニック(株) 理事 東京R&Dセンター所長
矢入 郁子	上智大学 理工学部 情報理工学科 准教授
弓削 哲也	ソフトバンクテレコム(株) 顧問

情報通信審議会中間答申(平成23年7月)より

(敬称略)(平成23年7月1日現在)

【平成24年度概算要求の概要】

1. 総務省におけるICT分野の科学技術関係予算の合計額は、653億円(前年度比較で123億円(23.2%)の増)。
2. そのうち、本省経費は355億円(同128億円、56.4%増)、(独)情報通信研究機構(NICT)に対する運営費交付金は298億円(同5億円、1.7%減)。

表：情報通信関係の平成24年度概算要求の状況(※1)

(億円)

	平成23年度 当初予算額	平成24年度 要求額	平成24年度 復旧・復興 対策経費	平成24年度 「日本再生 重点化措 置」要望額	平成24年度 合計額	対前年 増減額	対前年 増減比
科学・技術関係予算 (情報通信関係)	530	508	33	111	653	+123	+23.2%
総務本省	227	211	33	111	355	+128	+56.4%
(独)情報通信研究機構(※2)	303	298	0	0	298	-5	-1.7%

※1 計数はそれぞれ四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

※2 (独)情報通信研究機構の運営費交付金。

③アクションプラン及び施策パッケージへの取組

アクションプラン対象施策

ICT分野の科学技術関係予算においては、下表の施策がアクションプラン対象施策として登録されている。

4つの重点対象	総務省からの登録施策
復興・再生並びに災害からの安全性向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の情報伝達基盤技術に関する研究開発(東日本大震災復旧・復興にかかる経費 33億円)(新規)(※1) ○ 航空機SARによる大規模災害時における災害状況把握(NICT運営費交付金の内数)(継続) ○ 電磁波(高周波)センシングによる建造物の非破壊健全性検査技術の研究開発(NICT運営費交付金の内数)(新規)
グリーンイノベーション	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戦略的情報通信研究開発推進制度(競争的資金)(要求額 24億円の内数として、地球温暖化対策に資するCO2排出削減や省エネルギー化に貢献するICT(情報通信技術)分野のイノベーションを創出する研究開発を実施)(継続)(※2) ○ 世界科学データプラットフォームの実現(NICT運営費交付金の内数)(継続) ○ フォトニックネットワーク技術に関する研究開発(NICT運営費交付金の内数)(継続) ○ 経済成長に資する情報通信技術の研究開発・利活用促進(「日本再生重点化措置」に係る要望額 189億円の内数として超高速・低消費電力光ネットワーク技術の研究開発を実施)(新規)(※3) ○ 先進的ICT国際標準化推進事業(要求額4億円、標準化実証)(新規)(※4)
ライフイノベーション	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発(要求額8億円及びNICT運営費交付金の内数)(継続)
基礎研究の振興及び人材育成の強化	(なし)

- ※1 「通信・放送ネットワークの耐災害性強化のための研究開発」として登録。
 ※2 「ICTグリーンイノベーション推進事業」として登録。
 ※3 「超高速・低消費電力光ネットワーク技術の研究開発」として登録。
 ※4 「スマートグリッドの通信インターフェース標準化推進事業」として登録。

施策パッケージへの取組

次の施策パッケージを提案している。

施策パッケージ名: ICT国際連携推進研究開発プログラム

施策パッケージの目標: 日本及び外国の研究機関からの共同研究提案に対して資金を支援等することにより、光ネットワークやワイヤレス等のICT分野の国際標準化や実用化を加速し、我が国の国際競争力強化を実現。

④各研究開発法人の戦略的な目標と目標達成のための重点的取り組み等

【基本的考え方】

NICTは、新成長戦略などの国の政策のもとで、国民生活とあらゆる産業活動を支えるICT(情報通信技術)の研究開発を総合的に推進。

【平成24年度概算要求の概要】

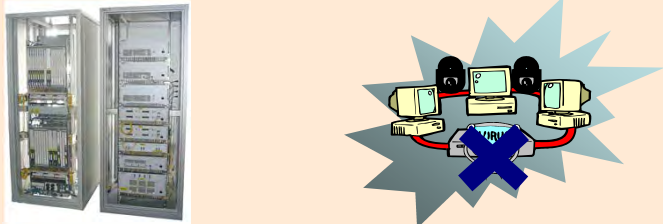
要求額 298億円(平成23年度予算額 303億円)

【NICTにおける戦略的な目標と目標達成のための重点的取り組み】

1. NICTは、「新たな情報通信技術戦略」や総合科学技術会議の「『科学技術に関する基本政策について』に対する答申」(平成22年12月)を踏まえて策定された第3期中期目標(平成23年度～27年度)に基づき、**「グリーン」**、**「ライフ」**及び**「未来革新技術」**の3分野に重点化して研究開発を推進。
2. 当該中期目標に基づき、NICTは第3期中期計画期間中(同)において、以下の4領域の研究開発を推進。また、研究開発の推進にあたり外部評価システムを活用し効率的・効果的に実施。
 - ・ネットワーク基盤技術
 - ・ユニバーサルコミュニケーション基盤技術
 - ・未来ICT基盤技術
 - ・電磁波センシング基盤技術

ネットワーク基盤技術

情報量の増大、消費電力の低減等の要請に応える
安心・安全なネットワークを実現する



光通信、ワイヤレス通信、ネットワークセキュリティなどの技術の研究開発を進めることにより、環境負荷を低減し、大容量で高度な信頼性・安全性を備えた新世代ネットワークの実現を目指す。

ユニバーサルコミュニケーション基盤技術

様々な壁を超えて人に優しい
コミュニケーションを実現する



多言語通信、超臨場感通信などの技術の研究開発を進めることにより、言葉の壁を越えたコミュニケーションや高度な臨場感を伴う遠隔医療など、人と社会にやさしいシステムの実現を目指す。

電磁波センシング基盤技術

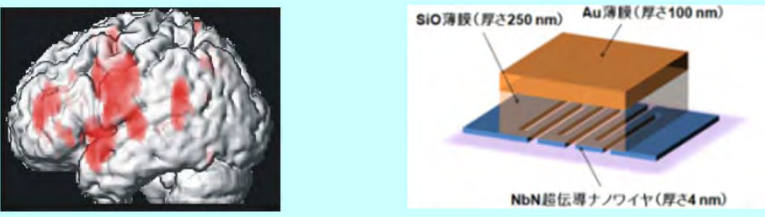
高精度な時刻情報や環境情報を
容易に安全に利用できるようにする



時空標準、電磁環境、電磁波センシングなどの技術の研究開発を進めることにより、電磁波を安全に利用するための計測技術、災害や気候変動要因等を高精度にセンシングする技術等の利用促進を目指す。

未来ICT基盤技術

未来の情報通信にパラダイムシフトをもたらす



脳・バイオICT、ナノICT、量子ICT、超高周波ICTなどの技術の研究開発を進めることにより、未来の情報通信にイノベーションをもたらす新たな情報通信概念と技術の創出を目指す。